

ニューフェース、ポスターセッションの登場

郡 司 好 喜*

社会の進歩とともに情報が激増し、個人相互はもちろん集団相互の距離はきわめて短くなつてきます。しかし、情報の伝達がスムーズにしかも正確に行われないと逆に混乱と歪みが生ずることも事実であります。

産業及び科学技術の急速な発展に伴つておびただしい情報が発生しておりますが、それらの情報を正確に収集、伝達する媒体としての学協会の仕事はいちじるしく膨張するとともにその悩みも深くなつてきております。講演数が年間千数百件にも達するまでに増加してきた鉄鋼協会も例外ではありません。年間数百件の講演が行われていた時代に確立された現在の方式ですと、開催するための会場の確保が困難になつてきたばかりでなく、聴きたい講演が同じ時間に並列で行われるなど、大きな欠陥が生じてきました。もちろん、講演時間の短縮、講演大会々期の延長など、物理的な改善策がないわけではありませんが、それによつて生ずる不利益も否めません。

こうした背景の中に登場したニューフェースがポスター

セッションであります。そのルーツをたどりますと、研究室や職場でのディスカッションスタイルが原形であり、それをそのまま講演会場に運んできたと考えればよいわけです。従つて内容の理解や討論が不満足であるはずがなく、むしろ別な面に問題が生じてきます。数多くのポスターセッションを行えば、講演数過多の問題は解決され、発表も討論も十分行われ、聴講者は選択的に聴講と討論を行うことができます。その反面、発表者は他の講演を聴けないとか、聴講者には限られた時間内に聴講できる講演数に限度が生ずるという欠陥のあることも事実であります。

小規模ながら3年にわたりポスターセッションを実施し、会員の皆様の忌憚のない御意見をうかがつてきましたところ、きわめて強く支持されていることも理解できました。今後は、講演数の動向を見守りながら、ポスターセッションのもつている欠陥を是正しつつその発展をはかるべきだろうと考えています。

~~~~~

## 昭和55年春季講演大会ポスターセッションに参加して

楯 昌 久\*\*

ポスターセッションの趣旨は、講演大会あるいはパネルディスカッションと異なり、多数の聴視者への一方的説明ではなく、そのテーマに深い関心を持つ聴視者との1対1の討論を原則としている。従つて発表者の基本的姿勢として、内容的にある程度の独創性を有する魅力あるもので、かつ情報として新鮮味のあるものでなければならない。特に我々現場操業に携わる者としては、単なる理論的・実験的段階の内容に留まらず、実操業から得られた豊富な経験と知識に裏付けされ、かつ理論的解析のなされた内容であることが要求されよう。

この理念を基に発表態度を掘り下げていくと、まず準備は可能な限り広範囲に行い、聴視者を説得させ得るものであり、関係者の批評に十分耐え得るものでなければならない。そして当然限定された時間内に豊富な内容を聴視者に理解させると共に、討議を深く掘り下げられるようにするためには、発表技術も重要な要素であり、かつその説明も要領よく相手を理解させる洗練されたものを必要とする。

一般的に、発表者はその業務を担当する管理者又は実

務担当者であり、特に現場操業者は割合閉鎖的で、外部情報あるいは関係者との接触が少ない。このためこのような機会に多数の関係者と接触できることは、その狭視野を打破する貴重な経験となる。そしてこの際数多くの斬新な考え方・情報および解析方法等を習得することは、発表者のみならず聴視者にとつても、非常に有意義であり、双方のレベルアップに多大な貢献をしていることは否定できない。このためにも今後このポスターセッションの開催に当たつて、そのテーマは、業界全体でニーズの高い時宜を得たもので、独創性があり、質的に高く、かつできるだけすべて公開できることを原則に選定し、必ずしも定期的開催に固執することなく、内容のある有意義なものとして発展させることを切に期待している。

丸 川 雄 浄\*\*\*

今回はじめてポスターセッションの発表をさせていただきました。その時の所感を2, 3述べさせていただきます。

まず実施状況は、午前9時頃から1時間程ポスター、図面等会場準備を行い、10時から12時まで2時間たつ

\* 本会講演大会分科会主査 金属材料技術研究所 工博

\*\* 日本鋼管(株)京浜製鉄所

\*\*\* 住友金属工業(株)鹿島製鉄所